

KONARA HOUSE

大自然の中の家

木々のさざめき、小鳥のさえずり、そして庭を駆け回る子どもたちの笑い声……。都会の喧噪を離れ、自らの手で森の中に「理想の家」を建てた小形さん夫妻。多少の不便はあるけれど豊かな自然に心癒される日々です。

PART 1

里の家

小形さんは大工の究さんと妻・美栄子さん。沙羅ちゃん、染くん、柊ちゃんの5人家族。たまの休日はポーチでランチをゆっくり味わい、パパお手製のブランコに乘ったり、ボール遊びをしたり……広い庭に家族の楽しげな声が響きます。



3 コナラの木の上から移築したツリーハウス。吊り橋を渡っていく趣向に、すっきりトム・ソーヤ気分です。4 ドアもソファも小さな桜ちゃんにぴったりサイズ。5 少し庭を散策しただけでドングリがいっぱい! 夏にはクワガタやカブトムシもたくさん来るそう。6 子どもたちも季節の贈り物を楽しみにしています。7 室内は白とブルーで統一。天井には「サラグレース」のシャンデリア、オランダの「エンゲル」社のポンポンオブジェを。

TREE HOUSE 庭の片隅にもうひとつの 小さなうち

VEGETABLE GARDEN

丹精こめて育てた野菜の美味しさは、また格別!



7 帽子をかぶり長靴を履いた美栄子さんに「野菜仕事? (笑)」と宛さん。庭の菜園ではパジルなどのハーブ類をはじめ、夏にはキュウリ、ナス、オクラなどたくさんの野菜が収穫できます。8 桜ちゃんも手伝って、シソの残りをお片づけ。「また来年、生えてくる?」

みがまたひとつふえたそうです。「不便なところですが、この暮らしは何物にもかえがたい。春は新緑、秋は紅葉、自然は四季折々さまざまな贈り物を届けてくれます。ご夫妻が一番うれしい贈り物は子どもたちの笑顔、でしょうね。」



屋根と窓と煙突……バー吉ニア・リー・パートンの絵本『ちいさいうち』から抜け出たような外観は、宛さんの理想形。屋根と外壁に用いたウエストンレッドシダーは年を経るほどグレーを帯びて、周囲の木々にとけ込んでいくそう。



1 アーチ形に剪定したレイランドヒノキの垣根をゴールがわりに、サッカーをするのが男子チームのお楽しみ。2 家の正面に、一家を守るように枝を広げるコナラの木。「このあたりは雑木林と竹林でした。造成する際、この木はどうしても残したくて」と宛さん。

GARDEN

ホストツリーのコナラの木が
家族の笑顔を見守って

小形さん(神奈川県)

PROFILE

夫婦で住宅設計・施工会社 KONARA HOUSE を経営。宛さんが建築を、美栄子さんが庭とインテリアコーディネートを担当。オリジナルティンバーフレームによる家を紹介したいと、自宅をモデルハウスにしています。
www.konarahouse.jp

緑とともに四季を感じて暮らす幸せ

雑木林に囲まれ、別荘地に来たような小形さんのお宅。秋になると庭の落ち葉を片づけたり、暖炉の薪を準備したりと大忙し。それでも「人づきあいは苦手だけれど、自然とつきあうのは苦にならないですね」と宛さん。

そんな小形さん一家の休日はスクリーンポーチから始まります。スクリーンポーチとは、欧米でよく見られる半屋外スペース。庭に面した空間にソファやテーブルを置いて、さながら第二のリビング&ダイニングに。「あたたかい季節の休日は、ほぼポーチでブランチャパーベキュー。日が落ちるまでゆっくり過ごします。子どもは冬も庭でおいもやマシュマロを焼くのが好きですが、大人は暖炉の前にお引越し」と美栄子さん。広い庭の奥には、母屋によく似た小さなおうちが。もとはコナラの木の上にあったツリーハウスでしたが、木の保護のため移築。シャビーなコーディネートは、もちろん美栄子さんの手によるもの。2畳ほどの空間ですが、庭の楽し



KITCHEN

「黒」をきかせたスタイリッシュキッチン



「オープンシェルフに『見せて収納』する食器は白と決めているそう。アイランドカウンターではねちゃんがサラダの盛り付けを手伝い。ときには家族みんなで生地からピザを作るそう。『大容量の収納は、本当に使いやすい。戻す場所がきちんとあれば散らからないし、お掃除もラク』。ワークトップ下の引き出しには、食器をはじめラップや密閉容器など生活感のあるものをすべて収納。『昨今、人気のランタンタイルと『グローバル』のナイフが見せる機能美の対比も見事！

キッチンは美栄子さんがデザインし、完さん率いる職人さんが施工。『私自身の使い勝手をよくよく考えてつくったので、本当に使いやすい』そう。ポーチに面した南側にシンクを設置したので「食事の準備中も、外の子どもの様子が見えて安心」。シンクと黒い水栓金具は「コーラー」社。

PORCH LIVING

夫婦水いらずで過ごす
リラックスした時間

子どもたちが遊びに行ったら、しばし大人の時間。お茶を飲みながらの会話は「やっぱり子どものこと。あとは二人とも家が大好きなので、仕事のことが多いかな（笑）」

PORCH DINING

ポーチでのランチに
食も会話も弾んで



『家の雨側、玄関の手前にスクリーンポーチと呼ばれる半屋外スペースを設置。屋根はもちろん、周囲に網戸を張っているので虫の多い夏も安心。雨の日は子どもたちの遊び場にも変わります。』ほかほかの日ざしの中でのランチはもちろん、星空を眺めながらのディナーも素敵。内でも外でもない空間がもたらす贅沢な時間を味わって。『この日のランチは、染くさんが大好きな『ママのラザニア』と、季節の野菜をたっぷり。』





アーチ状にデザインしたリビングの小上がりは、暖炉の前の特等席。「ここに座ると動けなくなっちゃう」と美栄子さん。究さんの指定席は英国アンティークのウィンザーチェア。

LIVING

暖炉の火に照らされて思い思いに過ごすリビング

「絶対なまじ加減で味つけされた室内は、どこを見てもすすきり。『自宅兼モデルハウスですから、来客も多い。すべてのものに対して収納場所を確保し、家族全員、出したらしき、を徹底しています。』」

絶妙なさじ加減で味つけされた室内は、どこを見てもすすきり。『自宅兼モデルハウスですから、来客も多い。すべてのものに対して収納場所を確保し、家族全員、出したらしき、を徹底しています。』

暖炉の炎に家族が集う冬の日
玄関を入ると正面にダイニング、右手にオープンキッチン、左手に小上がりのリビングが広がります。そして部屋の中心はやっぱり暖炉。「薪ストーブではなく、暖炉にこだわりました。予想以上にあたかく、なにより火を見ていると心が落ち着きますね」と究さん。



5 小上がりになったリビングの床下収納には、梁くんと悠ちゃんのレゴがたっぷり！「しまう場所さえ決めてあげれば、小さな子どもでもお片づけできます」と美栄子さん。6 血は争えない！梁くん設計施工のレゴの家。レゴを始めると、いつも2時間くらい集中して作業する梁くん。ママのワインコーナーもつくってくれるのだとか。7 シンプルな埋め込み式の暖炉はデンマークの「ワム」社。点火は究さんの冬の日課です。暖炉のおかげで震災時も何も困らなかったそう。



BOOKSHELF

家族みんな、本が大好き！ たくさんの蔵書は色別に収納



1 玄関正面のブックシェルフには建築関係の本や子どもたちの絵本が整然と並んで。サイズも色もさまざまな本の収納は「色別に分けるのがおすすめ」と美栄子さん。2 「何を読もうかな」と悠ちゃん。色別収納のおかげで読み終わった本をもとの場所に戻すのも簡単。3 ランチを待つ間、はしごでひと休みの梁くん。すぐれた断熱性能と温水式床暖房、暖炉のあたたかさで、家の中は冬でもシャツ1枚で過ごせるほど。4 究さんが大工の道を選ぶきっかけとなった木彫りの熊。





アーチ状にデザインしたリビングの小上がりは、暖炉の前の特等席。「ここに座ると動けなくなっちゃう」と美栄子さん。究さんの指定席は英国アンティークのウィンザーチェア。

LIVING

暖炉の火に照らされて思い思いに過ごすリビング

「絶対なまじ加減で味つけされた室内は、どこを見てもすすきり。『自宅兼モデルハウスですから、来客も多い。すべてのものに對して収納場所を確保し、家族全員、出したらしき、を徹底しています。』」

絶妙なさじ加減で味つけされた室内は、どこを見てもすすきり。『自宅兼モデルハウスですから、来客も多い。すべてのものに對して収納場所を確保し、家族全員、出したらしき、を徹底しています。』



5 小上がりになったリビングの床下収納には、梁くんと悠ちゃんのレゴがたっぷり！「しまう場所さえ決めてあげれば、小さな子どももお片づけできます」と美栄子さん。6 血は争えない！梁くん設計施工のレゴの家。レゴを始めると、いつも2時間くらい集中して作業する梁くん。ママのワインコーナーもつくってくれるのだとか。7 シンプルな埋め込み式の暖炉はデンマークの「ワム」社。点火は究さんの冬の日課です。暖炉のおかげで震災時も何も困らなかったそう。

暖炉の炎に 家族が集う冬の日

玄関を入ると正面にダイニング、右手にオープンキッチン、左手に小上がりのリビングが広がります。そして部屋の中心はやっぱり暖炉。「薪ストーブではなく、暖炉にこだわりました。予想以上にあたかく、なにより火を見ていると心が落ち着きますね」と究さん。

木組みの家をスタイリッシュに見せているのは、美栄子さんのコーディネート手腕。「コンセプトはモダン・デコです。シンプルすぎる空間は味けないし、かといってゴテゴテと飾りたてるのも好きじゃない。デコラティブな要素は、料理で言ったらスプーン1杯くらいがちょうどいいんじゃないかしら。ほんのひとさじ黒をきかせると、インテリアがグッとあが抜けます」



BOOKSHELF

家族みんな、本が大好き！ たくさんの蔵書は色別に収納



1 玄関正面のブックシェルフには建築関係の本や子どもたちの絵本が整然と並んで。サイズも色もさまざまな本の収納は「色別に分けるのがおすすめ」と美栄子さん。2 「何を読もうかな」と悠ちゃん。色別収納のおかげで読み終わった本をもとの場所に戻すのも簡単。3 ランチを待つ間、はしごでひと休みの梁くん。すぐれた断熱性能と温床式暖房、暖炉のあたたかさで、家の中は冬でもシャツ1枚で過ごせるほど。4 究さんが大工の道を選ぶきっかけとなった木彫りの熊。

